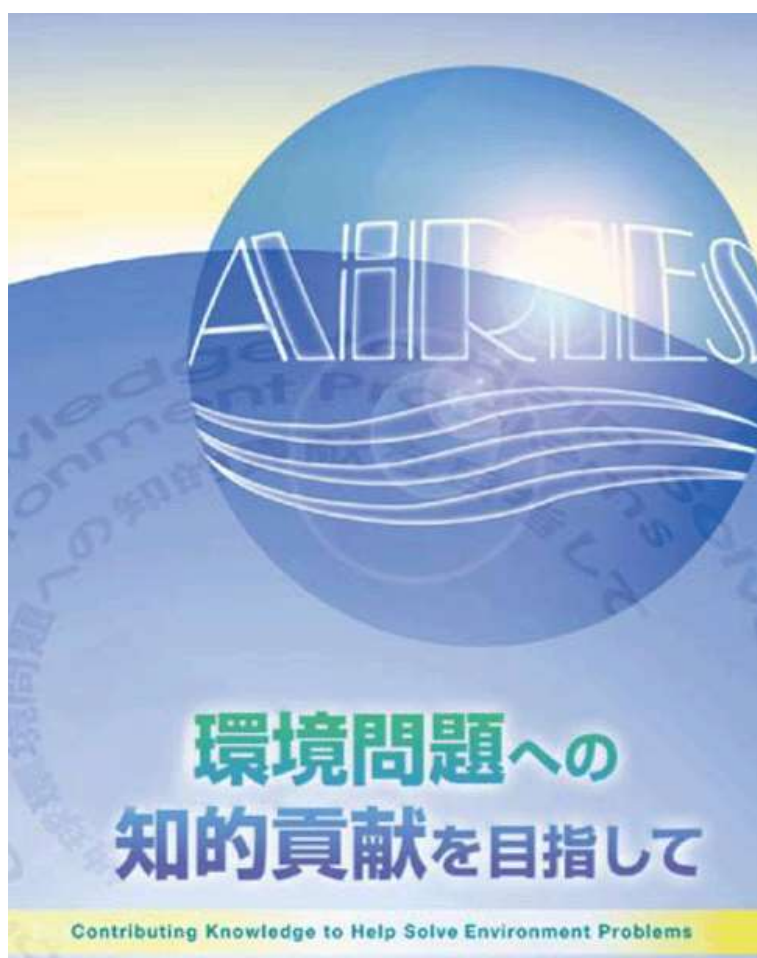


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2016年4月 第238号



CONTENTS

- 1 協会業務報告
- 2 AIRIES 随筆(99) コラム「異見会」(1)「異見会とは…」
八木 美雄(前(公財)廃棄物・3R 研究財団 専務理事、(株)アクトリー 技術顧問)
- 3 平成 27 年度 第 2 回通常理事会報告 堀 雅文(事務局長・理事)
- 4 業務日誌

協会業務報告

徳田博保(専務理事)

桜が咲き始めた頃、昼休みに近くの上野公園に出かけたら、世界各地からの観光客で花盛りでした。感覚的には大半が外国人で、日本人はといえば、花粉症対策でマスクをかけた勤め人か、夕方からの酒盛りに備えて陣取りをしている若者か、時間がたっぷりある老夫婦といったところのように見えました。その後、満開の時期には、さすがに8割方は日本人という感じでしたが。

2015年の訪日外国人旅行者数は1,974万人で、東日本大震災前年の2010年が861万人(独立行政法人国際観光振興協会)なので5年で倍以上になっていますが、上野公園、アメ横、秋葉原(いずれも近所)などを歩くと増加ぶりを実感します。2020年のオリンピックを控え、これからますます日本を訪れる外国人観光客も増えていくでしょうね。

ところで、観光というのは、多分人間以外の動物はしない極めて人間的な行為だと思われませんが、最近の人工知能の進歩を目の当たりにすると、遠い未来では、ひょっとするとコンピュータが観光を楽しむ時代も来るのかもしれないなどと思ってしまいます。

1月末には、コンピュータが囲碁の第一人者であるイ・セドル棋士に勝ちました。チェスや将棋ではすでにコンピュータが強くなっていたものの、囲碁は打てる手の数が桁違いに多い(10の360乗とか)ことから最後の砦だったようですが、コンピュータの4勝1敗でした。

人工知能は大学入試にも挑戦していて、私立大学579大学のうち、403大学の合格可能性が80%以上(A判定)だったという報道も2年ほど前に

ありました。

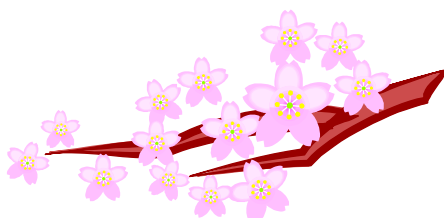
車は自動運転になり、ピザはドローンが運んでくれ、病気になればブラックジャックならぬホワイトジャックによりの確に診断され、おまけにどこにいても監視カメラで無事を確認していただける(ロンドンでは、観光客は一日に約300回も防犯カメラに写されているとか)時代がそこまで来ています。

楽しいという感情も脳の中での電気信号のやりとりなので、コンピュータも感情を持ち得るといふ説もあるようです。「美しい桜を見たら感動する」、「感動できる場所に行く」といったようなことをインプットしておけば、かしこいロボット君はインターネットで桜の開花状況を調べ、3月末にいそいそと近所の公園に出かけ、日本酒ならぬ燃料電池用エタノールを飲みつつ宴を楽しむなんてことになるのでしょうか。

さて、協会の業務ですが、3月には、「環境研究総合推進費」の平成27年度終了課題研究成果報告会、「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」の平成28年度新規課題採択のための評価委員会などを開催しました。理事会も開催し28年度予算の承認などが行われましたが、概要を4ページに載せています。

一方、平成28年度の事業については、「環境研究総合推進費」と「CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」のPO業務を確保できました。

引き続き、皆様のご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



コラム「異見会」(1) 「異見会とは…」

八木 美雄 (前(公財)廃棄物・3R研究財団 専務理事、㈱アクトリー 技術顧問)



福岡城、潮見橋と大手下の門(1997.3)

コラム「異見会」を始めます。トップバッターは、コラムの題名のもととなった、秀吉の知恵袋・黒田官兵衛にゆかりの福岡・黒田藩での「異見会」のこと。

1. 閉塞感

現状を振り返ると、国・地方合わせて1千兆円を超える長期債務、少子化と高齢化の進行による人口減少傾向、中国の景気減速と金融不安による世界経済の低迷、さらにロシアの独走、北朝鮮の核開発強行、イスラム国の台頭とそれに伴うシリア、イラク、トルコでの政情不安など、国内外を問わず問題が山積し、解決策が容易に見えず閉塞感さえ感じます。

ところで、閉塞感と云えば、江戸時代の大名も、現在の事情とは異なるものの、自由度の少ない厳しい立場に置かれていました。

参勤交代による財政負担を強いられ、その上ちよっとでも落度があれば、御家取り潰しを企む幕府の厳しい姿勢がありました。そのため、大名や家臣団は、御家存続を第一に最新の注意を払っています。それでも、豊臣秀吉とつながり深い肥後(ひ

ご)・熊本の加藤家や安芸(あき)・広島の前田家などは、あえなく、御家断絶の憂き目に遭っています。

そんな中で、福岡 52 万石の外様・黒田家は、徳川三百年をしぶとく生き抜き、明治を迎え子孫は侯爵になっています。黒田家は、どうやって、組織を活性化させ、家名を維持したのでしょうか。

2. 黒田官兵衛

ここで、黒田藩の始祖、黒田官兵衛についてざっと見ることにしましょう。

官兵衛は、竹中半兵衛とともに「二兵衛」の一人として、秀吉の天下取りに大きく貢献してゆきます。

しかし、秀吉は、官兵衛を参謀長として重用したものの、働きに見合った所領を与えることなく、天正 15 年(1587)に九州平定が成ると、ようやく官兵衛に豊前(ぶぜん) (大分県北部) 半国 12 万余石を与えています。天下人・秀吉は、官兵衛の中に自分と同じ才覚の DNA が存在していることを見抜き、自分に取って代わる人物として、秘かに警戒心を持ち続けていたのでしょうか。

官兵衛も、天下人・秀吉の心の動きを敏感に察知していました。いち早く家督を嫡男・長政に譲り、朝鮮出兵で無断帰国して秀吉の逆鱗(げきりん)に触れると、即座に剃髪して如水と名乗って出家し、後に秀吉に許されると、大坂城下の屋敷で悠々と隠居生活を送っています。

天下人・豊臣秀吉が没すると、慶長5年(1600)、秀吉亡き後の天下をめぐる、秀吉の最側近・石田三成率いる西軍と徳川家康の東軍の激突が避けられない情勢になりました。

55歳になった官兵衛は、豊前・中津城にあって家康挙兵の報せを知ると、長年眠っていた天下取りの野望が甦りました。官兵衛は、貯め込んでいた金銀を惜しげもなく使って、浪人を集めて急造の軍団に仕立て上げ、一気に北九州を席卷しました。しかし、関ヶ原の戦いが半日で家康の勝利に終わったことを知ると、さっさと兵を引いて、元の隠居生活にもどりました。

戦後、嫡男・黒田長政は、筑前一国52万石の大大名に取り立てられました。官兵衛は、故地に因んで名付けた福岡城の一角で、静かに晩年を過ごし、慶長9年(1604)3月、伏見藩邸で没しました。享年59。

辞世は、「思ひおく 言の葉なくて つひに行く道は迷わじ なるにまかせて」

3. 異見会

戦国乱世を生き抜いた官兵衛は、嫡男・長政に藩運営を万全とする知恵を授けました。部下と定期会合を持つことです。

会合にあたっては、藩主を含めて出席者に絶対的条件が付けられました。すなわち、①身分を忘れること、②何を言われてもシコリを残さないこと、③秘密を洩らさないことでした。

そして、発言者には、身分に一切関係なく、直言、曲言、辛言、放言などどんな発言であっても、自由が保障されていました。

この会合は、黒田藩に連綿として受け継がれ、藩主や幹部家臣たちは、敷居を取り払い袴を脱ぎ、部下からの提言や社会状況の説明などに率直に耳を傾けることが習慣となって行きました。その結果、藩経営の自動制御センサーは、時代の流れや世相に敏感に作動して、閉塞感が色濃く漂う徳川の長き時代にあつて、黒田藩の安定経営に大きく寄与しました。黒田藩では、この会合を「異見会」と名付けていたそうです。

なお、実際には、黒田藩主には他家からの養子が多く、幕末、明治の新時代を切り開くような働きはできませんでした。それでも、三百年近くも御家取り潰しもなく黒田藩が続きましたので、「異見会」無かりせばと考えれば、「異見会」の存在は大きかったと断言できるでしょう。

翻つて、天下人の器量ある黒田官兵衛の発案だから機能したのであつて、現在、「異見会」を開催できるだけの余裕ある組織は存在し得ないかもしれません。

となれば、仕事やプライバシーに係る話はご法度を前提に、自由闊達に意見交換できる場を定期的に提供できれば、上出来であるとするべきかもしれません。

.....

これからの連載ですが、勝手気ままをベースとしたもので、見解や意見にかかわる箇所は筆者の個人的なものと最初にお断りさせていただき、読者の皆様には、気軽に拙文にお付き合いいただければ幸いです。



平成27年度 第2回通常理事会報告

堀 雅文(事務局長・理事)



平成 27 年 3 月 29 日、平成 27 年度第 2 回理事会が開催されました。理事会では最初に徳田専務理事から協会の業務執行状況の報告が行われました。引き続き、平成 28 年度の事業計画（案）と収支予算（案）の審議が行われ、すべて原案どおり承認されました。承認された議案は以下のとおりです。

平成 27 年度業務執行状況報告

平成 27 年 6 月から平成 28 年 3 月の間の業務執行状況は以下のとおりです。

1. 公益目的支出計画の実施完了の確認

平成 28 年 1 月 25 日付けで、内閣総理大臣により、公益目的支出計画の実施が平成 27 年 3 月 31 日に完了したことが確認された。このことにより、平成 27 年度以降、会誌の発行業務は自主事業という位置づけが決定した。

2. 自主事業

(1) 学会会員の募集

学会会員の募集に努めた。

(2) 会誌の発行

会誌編集委員会を 2 回(平成 27 年 7 月 21 日、11 月 6 日) 開催するとともに、和文会誌「地球環境」2 冊及び英文会誌「Global Environmental Research」2 冊を以下のとおり発行し、協会会員及び国内外の大学・研究機関、国際機関等に配布した。

【地球環境】

Vol. 20 No.1 「リン循環」

Vol. 20 No.2 「生命を育む地球環境の変動；将来予測と適応を目指して」

【Global Environmental Research】

Vol. 19 No.1 “Sustainable Use of Phosphorus in Asia”

Vol. 19 No.2 “Transformation towards Sustainability under the Sustainable Development Goals”

(3) 国際環境研究協会ニュースの発行

法人会員、個人会員、学会会員向けに「国際環境研究協会ニュース」第 228 号から第 237 号を作成して送付した。

(4) 会員に対する情報提供

法人会員、個人会員に対し、協会が運営した研究報告会の開催案内、日本学術会議からの情報等を主にメールで情報提供した。

(5) エコアクション 21 の推進

協会における省エネなどの環境管理を進め、平成 27 年 5 月に平成 26 年度の環境報告書を作成・公表するとともに、平成 27 年 7 月に更新審査を受け、2017 年 9 月 1 日まで有効の認証・登録証を受領した。

3. 受託事業

平成 27 年度には、環境省から以下の 4 つの事業を受注し、環境省が所管する 2 つの競争的研究資金等の円滑かつ効率的な運営を総合的に支援した。

(1) 競争的研究資金制度管理・支援事業

環境省が実施する 2 つの競争的研究資金に係るプログラムディレクターを配置し、同研究資金に係る一連の管理業務を実施した。

(2) 環境研究総合推進費研究管理・検討事業委託業務

環境研究総合推進費に係るプログラムオフィサーを 8 名配置するとともに、同推進費制度の効果的かつ効率的な実施を支援した。

(3) CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業管理・検討等事業委託業務

CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業に係るプログラムオフィサーを 2 名配置して適正な技術開発管理を行うとともに、CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業の効果的かつ効率的な実施を支援した。

① 技術開発管理業務

② 広報業務

(4) 「小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業」（再資源化事業者提案型）選定委員会統括業務

「小型電子機器等リサイクルシステム構築実証事業」の応募案件を審査・選定するための選定委員会の運営を行う業務を実施した。

国際環境研究協会は、一般社団法人化にともない、引き続き、産官学の研究者・技術者、行政官及び市民の相互の情報交換や国際的な交流の促進、また、環境研究・環境技術開発の推進に貢献することを目指し、協会会員と連携して次の事業を展開する。

1. 運営管理

(1) 総会及び理事会

一般社団法人の定款に基づき、通常理事会を年 2 回（5 月・3 月予定）、定時社員総会を原則として年 1 回（6 月予定）開催する。

(2) 企画総務部会

協会の適切な運営を図るため、必要な都度、企画総務部会を開催する。

2. 自主事業

(1) 会誌の発行

会誌編集委員会を 4 回程度開催するとともに、和文会誌「地球環境」及び英文会誌「Global Environmental Research」を発行し、協会会員及び国内外の大学・研究機関、国際機関等に配布する。

(2) 情報交流推進に関する事業

① 学会会員の募集

各種のイベント等の開催時に協会のパンフレット等を配布して、学会会員に加入してもらうよう勧誘する。

② 国際環境研究協会ニュースの発行

会員向けに、「国際環境研究協会ニュース」を毎月発行する。

③ 会員に対する情報の提供

協会が入手した環境関連の資料等を随時会員へ提供する。

④ エコアクション 21

エコアクション 21 の認証を維持していくために、協会の環境管理をさらに徹底していく。

(3) 地球環境保全に関する調査研究事業

地球温暖化・地球環境問題、循環型社会形成など幅広い環境問題に関して、環境省をはじめとした各関係機関の施策の動向に関する情報を収集する。

平成 28 年度事業計画（案）

(4) 広報事業

平成 27 年度に引き続き、以下の事業を実施する。

- ①協会パンフレットの更新及び頒布
- ②協会ホームページの更新・改善

3. 受託事業

環境省等が公募する調達案件に応募し、積極的な受注に努めるものとする。重点を置く分野としては、競争的研究資金等の管理・運営・評価に関連した分野が考えられるが、それらにとどまらず、活動の分野を広げるように努める。

平成 28 年度予算書

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで

(単位:円)

科 目	予算額	前年度予算額(補正後)	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
入会金収入	20,000	20,000	0	
会費収入	2,030,000	2,030,000	0	
事業収入	188,480,000	166,212,000	22,268,000	
雑収入	1,510,000	1,010,000	500,000	
経常収益計	192,040,000	169,272,000	22,768,000	
(2) 経常費用				
自主事業費	7,000,000	7,000,000	0	
受託事業費	103,600,000	87,100,000	16,500,000	
管理費	81,440,000	75,172,000	6,268,000	
経常費用計	192,040,000	169,272,000	22,768,000	
当期経常増減額	0	0	0	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外用費用	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	0	0	
一般正味財産期首残高	45,866,520	45,866,520	0	
一般正味財産期末残高	45,866,520	45,866,520	0	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	45,886,520	45,866,520		



業務日誌



(2016年3月)

2/29(月),3/1(火):環境推進費 担当課題の国際ワークショップに参加(ガーデンシティ御茶ノ水)
1(火):環境推進費 アドバイザリーボード(アド)会合に出席(東京)
CO2 対策事業 実験サイト視察(長崎)
2(水):CO2 対策事業 検討会に出席(横浜)
2(水)-4(金):日本 LCA 学会に参加(東大柏の葉キャンパス)
3(木):環境推進費 アド会合に出席(愛知)
CO2 対策事業 事前評価(CO2 建築物分野)に出席及び開催支援(全日通霞が関ビル)
4(金):CO2 対策事業 事前評価(再エネ分野)に出席及び開催支援(全日通霞が関ビル)
7(月):CO2 対策事業 事前評価(バイオ分野)に出席及び開催支援(全日通霞が関ビル)
8(火):CO2 対策事業 事前評価(交通分野)に出席及び開催支援(全日通霞が関ビル)
9(水):CO2 対策事業 検討会に出席(京都)

10(木):CO2 対策事業 検討会に出席(東京)
11(金):環境推進費 H27 年度終了課題研究成果報告会を開催(砂防会館)
CO2 対策事業 検討会に出席(東京)
13(日)-15(火):化学工学会年会に参加(関西大学)
17(木):CO2 対策事業 第4回評価委員会に出席及び開催支援(全日通霞が関ビル)
22(火):企画総務部会を開催
23(水):CO2 対策事業 検討会に出席(東京)
24(木):CO2 対策事業 検討会に出席(愛知)
27(日)-30(水):森林学会に参加(日大藤沢キャンパス)

*環境推進費:環境研究総合推進費研究管理・検討事業
CO2 対策事業:CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL:03-5812-2105

FAX:03-5812-2106

E-mail:airies@airies.or.jp

Homepage:http://www.airies.or.jp